

市川地区中央部のまちづくり案内



市川地区中央部まちづくり懇談会

市川地区中央部の位置

市川地区中央部は、市川三郷町の中心市街地で、平塩の丘の麓の平地にあります。南は身延線、東は芦川、北は北線通り、西は県道市川富士川線に囲まれた面積50ha、人口およそ2,500人が住んでいます。。



歴史があるまち、市川

今から四百年以上前、1582(天正10)年、徳川家康が甲斐に入国したころ、平塩の岡には武田氏ゆかりの集落があり、紙づくりがなされていた。その後、集落は平地に移転し、1700年代中頃代官所(御陣屋)ができた。江戸期、現中央通りには酒屋・茶屋・仕出屋・旅籠・湯屋など商家・宿屋が軒を連ね、和紙・花火の産地として天下に名を馳せていた。明治になっても郡役所ができて市川は峡南の行政や経済の中心、交通の要所であった。大正～昭和30年代までは中央通りは、買物客でたいそうな賑わいをみせた。



安政4年(1857)地図を復元
(H27.3まちづくり読本収録)

まちづくりの沿革

平成11,12年、山梨県は、県内の地震に弱いまちを調査したところ、甲府などともに「市川地区中央部」（当時は市川大門町）が選ばれました。

町と県は、住民のアイデアを生かしたまちづくりをするため、住民に、平成14年3月「まちづくり懇談会」をつくりました。住民が学習会、まち点検、見学会などを行って、平成15年3月に町に「まちづくり提言」を提出しました。

町は、県、学識経験者を交えた「まちづくり研究会」で検討し、「まちづくり推進計画」をつくり、平成17年7月から国や県の支援を受け整備を始めました。

住民有志による「まちづくり懇談会」と、行政による「まちづくり研究会」が、両輪になってまちづくりを進めているのが特徴です。



町長に「提言書」提出 (H15.3)



まちづくり懇談会 (H15.10)



まち歩きワークショップ (H15.12)



小諸市に見学会 (H20.10)

まちづくり年表／まちづくりの目標

◆まちづくりの目標

住み続けられるまちを目指して ～市川の歴史・文化・風景を生かしたまちづくり～

◆まちの将来像

- (1)暮らしやすく住み続けられるまち
- (2)なつかしい、伝統的なたたずまいのまち
- (3)楽しく歩けるまち、安全安心でだれにもやさしいまち
- (4)豊かな生活・文化を背景に、みんなで育てるまち

◆進め方の方針

- ・みんなで話し合っって計画する
- ・行政と住民が協力して進める
- ・じっくり継続する

(平成15年3月まちづくり懇談会「まちづくり提言」)

- 平成14年1月 市川大門町まちづくり研究会
平成14年3月 市川地区中央部まちづくり懇談会
平成15年3月 懇談会「まちづくり提言」提出
平成15年4月 研究会「まちづくり推進計画」
平成16年度～プロジェクトチーム(町職員・住民)
平成16年6月 「市川まちづくり拠点」開設
平成17年4月～「まちづくり協定」、街なみ環境整備事業が始まる
平成17年5月～狭あい道路拡幅整備事業
平成19年3月 まちかどスポット「柿の木の辻」以降6箇所を整備
平成18年～ 中央通りの通行実験、美装化(平成23～26年度完成)
平成17年3月 市川大門散歩マップ
平成18年3月～紙のまち生き生きまつり
平成18年8月～摩利支天花火の日まち中ラリー
平成21年3月 「住まいのデザインノート」発行
平成25年3月 市川地区案内マップを設置
平成25年8月 通学路スロープ壁画制作事業
平成27年3月 三丁目秋葉社の常夜燈を再建
平成27年3月 「市川まちづくり読本」発行

まちづくりの成果

市川地区のまちづくりの2本柱

- ・国県町の「街並み環境整備事業」による施設等の整備
- ・懇談会を中心にした住民によるまちづくり活動



まちづくり拠点(H16.6)

まちの案内マップ



★歴史資源を活かしたまちかどスポットの整備

◆「秋葉の辻」(H19.12)

もとは車が通れない曲がり角、道路とひろばを整備した。



秋葉の辻整備前



池とせせらぎ、かばたを整備



近くにあった道祖神を移設



近所の人による開設イベント

★ 歴史資源を活かしたまちかどスポットの整備



柿の木の辻 (H19.3)



北河原の散歩道 (H21.3)



落合の道祖神 (H24.3)



中北の井戸端 (H21.3)



蘆洲の庭 (H23.3)

★中央通りの通行実験と美装化



対面通行の実験(扇屋さん前H18.2)



美装化工事(H22~25)



駐車と歩道の実験(拠点H18.2)



両側にバリアフリー歩道(H22~25)

★「住まいのデザインノート」の作成(H21.3)

市川地区には、ヒヤ(路地)、水路、町屋、土蔵、屋敷や庭、社寺、昭和期のモダンな建物などが残り、どこか気持ちがほっとする街並みが伝わっています。

この街並みをつなげるために、市川の建物のデザインを集めて、小冊子にまとめ配布しました。先人の思いを理解して、今後の住まい等の計画づくりの参考にいただければ幸いです。



★「紙のまち生き生きまつり」と「まちなかウォークラリー」



中央通りに特産の障子紙をおいて「巨大絵巻づくり」
演舞、太鼓や高校生による初動パフォーマンスも(H18.3～)



摩利支天花火の日に「まちなか
ウォークラリー」(H18.8～)

★「ホタルマップ」(H18.6～)・「通学路の壁画づくり」 (H25.8)



小中学生が地図に記入



★「案内マップ」・「まちづくり読本」作成

市川のまちのよいところを知ってもらおうということで、「案内マップ」をつくって、2つの駅と中央駐車場に設置しました。

それを解説する冊子をつくろうとみんなで手分けをして調べたら「まちづくり読本」が出来ました。

この中には、江戸時代の「市川大門村並絵図」も復元してあります。



平塚の岡から見た市川地区中央部
昭和36.7年頃

歴史と文化、水路とヒヤのまち
甲州・市川のまちづくり読本

平成二十七年二月

市川地区中央部まちづくり懇談会
山梨県西八代郡市川三郷町

平塚の岡から見た市川地区中央部
平成26年4月



これからのまちづくり

市川のまちづくりは、時間をかけて、町と住民が話し合いながらゆっくり進めています。よいまちを育て、次に伝えるまちづくりには、とても時間がかかります。

市川地区中央部まちづくり懇談会では、いまでも、月1回夕方、まちづくり拠点で会合を続けています。

これから取り組みたいことの中には、

- ・まちのシンボル「御陣屋門」を生かしたひろばづくり
- ・まちなかをホタルがとびかう環境づくり
- ・空き家の活用

などがあります。

若い人たちのアイデアを取り入れることもとても重要と考えています。是非、寄せてください。

懇談会へはだれでも参加できます。ご連絡を。

市川中央部まちづくり懇談会ホームページ参照

<http://www.ichikawa-machi.miraiserver.com>

